

総務文教委員会記録

令和元年6月3日（月）
13時30分～14時48分
第1委員会室

（委員）野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員
（議長・委員外議員）
（総務文教委員会 所管管理職）出席者なし
（事務局）篠原書記

議題

1 政策討論会のテーマについて

～政策討論会議題提案書提出に向けて～

（1）政策討論会の議題

「高齢者の移動手段の確保」

（2）提案理由

（3）資料など

2 その他

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 13 時 30 分)

野藤委員長

ただいまから総務文教委員会を開催する。お手元の資料のとおり、今日の議題は政策討論会のテーマについて。前回皆さんのご賛同を得て、「高齢者の移動手段の確保」に決定した。再度皆さんにそのテーマに基づいた提案をしていただき、一覧表にまとめた。皆さんの意見をいただきながらこれを1つにしたい。最終的には幹事会に提案することになるので、よろしくお願いします。

1 政策討論会のテーマについて

(1) 政策討論会の議題

(2) 提案理由

(3) 資料など

野藤委員長

テーマ一覧を開いて欲しい。前回提案された方で新たなものを入れた方はいるか。一応順番に発表して欲しい。佐々木委員から。

佐々木委員

新たに入れたのだが。

野藤委員長

では再度それぞれで、順番に。では私から。

課題・問題点についてはそこに書いてあるように、6月から石見交通バスも減便になったとの話が、先ほどの全協でもあった。確かに乗車率1便あたり1点何人という状況の中では減便せざる得ないのが流れではないかと思っている。公共交通事業者は利益が出る幹線路を重点的にやってくると思うので、行政や自治会はそれとの接続をしていく方向になると思っている。現在大麻、羽原と自治会輸送をしている所を参考にしながら、ある程度の仕組みを構築する、より良い提案をしていかないといけないと思っている。

提案内容としては、1から5まで。全国各地の先進地を挙げて、こういう所を見てはどうだろうかと提案して、良い所を参考にしたい。

予想される効果は白紙にしているが、地域コミュニティ活性化、元気な方と少し助けが必要な方との、地域における接点になればと思っているし、それによって地域が活性化すると定住にも繋がるのでは。地域の賑わいになるのかなと思っている。

小川委員

必要な費用も白紙にしているが、現在ある事業の事業費プラス自治会輸送の発展型とすると無償貸与して、人件費その他は自治会輸送の費用でペイできるような仕組みにしていけば、そんなにかからないのではないかと考えている。

私は前回から付け加えてはいないが、以降の流れで言うと議会報告会で出された意見の中で高齢者の移動手段というのは総務文教に関連のことだとのことで、総務文教から出ているメンバー3人で執行部側に回答を求めるよう整理している。たくさん出ている中の1つに、シニアカーに対する制度というか、お年寄りがバス停まで乗って行ったりするものがある。あれに対する補助、レンタル、リースができないだろうかという意見もあり、補助制度、助成制度など。その焦点をどこに絞るかが曖昧だった。

もう1つは、ドア to ドアで言うと最終的にはタクシーになるなど。そのタクシーに対する現行制度の中でタクシー券をもらっている方もおられるが、敬老乗車券との兼ね合いも含めて現行制度の拡充がもう少しできないかという意見もあった。そういう具体的な要望も出ていた。議会報告会のグループ討議において、井野の取り組みをされている中心者がおられて、その方の説明を他の人が聞いて賛同が上がったが、最後に自分らに返ってきて考えるのは運転手を担える人がいないし、誰が中心になってやるのかという話になった。制度や仕組みがあればいくらかでも利用するし便利だという声があった。三隅の議会報告会でそういう意見が交わされた。

これから政策提言を作ったり政策討論会の提案書を作るにあたって、実際、どの部分で困っている人に焦点を絞るのかを決める必要があると思った。困ってない人、不便を感じていない人もいる。どこで誰が困っているかの実態調査をしないうちに、こういうアイデアを出すのはどうかとも考えた。

野藤委員長

次は沖田委員。

沖田委員

私の意見はこの前と変わっていない。公共路線の便数がどんどん減っていることと、たまたま今朝の地方紙に松江市が返納者への支援をカットすることが大きな見出しで出ていたが、今後浜田市も絶対ないかというところにも保証はない。財政を考えたら、

いずれはそういう事態も来るのかなと。私自身の考え方の1つは、自らの地域インフラは自らが守っていくことを少しずつしていかなければならない時に来ている、というのが大前提にある。

提案する内容が自治会輸送。車も貸与ではなく自家用車を使ってやる。その代わり、何でも自己責任というわけではなく費用弁償分を行政が出す、その仕組みを行政がある程度指導していく。自分が考え得るメリット・デメリットを1から6まで書き出した。実現すればすごいが、人様の善意がないと成り立たない事業なので現実味については疑問があるが、一番伝えたいことは何かと言えば、行政をある程度あてにしつつも自らの足は自ら確保していくという考え方だ。

野藤委員長

西川委員。

西川委員

前は空家と地域リーダーだった。高齢者移動手段の確保を今回書いた。趣旨は、地域内ボランティアによるバス停への送迎システムを構築する事。問題点としては、公共交通バス路線の利用者が減って路線が廃止する問題がある。提案内容としては、地域内で送迎ボランティア団体を組織して、高齢者の玄関からバス停まで輸送と見送り、また玄関までの輸送を行うこと。主なバス停をハブバス停として整備して、そのバス停に待合所を作りサロン等にしてはどうかと思っている。

予想される効果は、行政は今ドア to ドアという話をされているが、病院から自宅ではなく自宅からバス停側の移動手段を計画する。その安全と手段を確保する。公共交通の利用も促進されるので路線も繋がって地域衰退を防ぐことができる。

必要な費用については金額的には提示できないが、ハブバス停の整備費用や管理費補助等が考えられる。

野藤委員長

佐々木委員。

佐々木委員

前回のものに付け加えたり、視察のために先進地を調べていたのだが、非常に公共交通については色んな自治体が似通った対応をしているので、同じような内容はどうかと提案を挙げたので、問題点と提案内容のみについて言う。

課題・問題点について。浜田市の主な公共交通機関は民間路線バスや生活路線バス、乗り合いタクシー、民間タクシー等がある

が、各路線バスの利用は中山間地域では利用しにくい。範囲は限られているが乗り合いタクシーや、費用負担は大きくなるが民間タクシーのドア to ドアの仕組みによる交通機関が高齢者には必要となる。費用負担が少なく多くの高齢者が利用しやすいドア to ドアの仕組みが広く導入できないか。一部地域で取り組まれている自治会輸送や有償運送は、運営の難しさやドライバー確保、事故の際の対応等の問題が想定されるが、住民の意識改革により広げること可能と思われる。

提案内容だが、現在市が展開している市路線バスや乗り合いタクシー、自治会輸送、有償運送等の施策を統合し、市内全域で統一したドア to ドアの乗り合いタクシー、バスの取組を、民間路線バスやタクシーが参入して取り組めないか。民間事業者には乗り合いタクシー用の車両費購入の補助金制度も想定する。従来の路線バス統廃合や整理を行い、補助金を削減する傍ら、新規事業に参入してもらう。全市を網羅する路線を作り、利用者を登録制にし、利用の受付は市の中に予約センターを設置し、運営の簡素化を図る。まちづくり交付金の活用も考えられる。提案については、今度できれば行きたいと思っているところもこういう形でやっている。要は自治会輸送や有償運送は地域住民の手や負担によって成り立つものだが、それがなかなか難しい。運転手がまず大変だし、無理な運営をいつまでも続けることは難しいので、いつそのこと運営負担も含めて市の中に設置して運営しやすいことを全域で、希望者のみ提供するような提案として考えた。

野藤委員長

道下委員。

道下委員

前回と全く変わっていない。皆さんの新しい意見も伺ったが、前回同様に自治会輸送に取り組み、どこがどうかの課題を整理しながら事業を広げていくべきと思っている。マンパワーが大きな課題だが、ではどのようにやっていくのか、この委員会でどう取り組みれば良いかを改めて思った。

野藤委員長

西田委員。

西田委員

提案趣旨は似たようなもの、課題・問題も同じような感じ。特に中山間地域の方が課題・問題が多い気がしている。一番大事なのは提案内容だが、私は 10 年くらい前の総務文教委員会で長野

県安曇野市に視察に行った。当時の公共交通のことで、今と同じ課題・問題を抱えている浜田市にとってということで行かせてもらって。安曇野市は9万人くらいが住む盆地的な場所で、地域の中では人口のまとまりが良い地形なので良かったのかと思うが、あそこは乗り合い式のデマンドタクシー。14台くらいのタクシーを毎日、前日までに高齢者の方が登録する登録制。寝たきりの人等は登録できないので、ある程度買い物や通院等で動ける独居高齢者中心の利用者を登録しておいて、利用者登録を運営するオペレーションセンターを社協が委託されていて、何時にどこか翌日の予定を全部作っていく。そういうのは浜田市に活用できるのではないかと。14台のタクシーのうち6、7台くらいが民間タクシー。民間と行政が一緒になって色んなやり方をしていた。それを浜田市内でできないかというのが1つ。

公民館、まちづくり、あるいはこれからできるだろうコミュニティセンター、そういう単位で地域の運営組織を地域で自ら立ち上げて、実用に沿った送迎システムを構築して、それを市がバックアップすると書いてあるが、本当は沖田委員が言われたような例はすごく理想的。うちらも実際、独居高齢者がたくさんおられて、動けない人は、地域の知人が送ってあげるという例が複数あるのが現実。世話好きな方が自分の車を使って買い物へ行ったり、温泉に誘ったりして、しょっちゅう乗せては移動している。そういう人もおられるが、それがいつまでどうなるか分からない。そういう場合は事故もあまり関係ない、個人のことで。

地域の実情が一番分かった人たちがある程度組織して、地域の実情に合ったシステムを作れば一番良いかなという気がしている。

効果は色々あると思う。独居高齢者同士が乗り合っていくとか、その間には色んな井戸端会議ができたり諸々の違うメリットもあったりすることもあると思う。

費用としては、安曇野市の例でいくと民間タクシーを利用したりオペレーションセンターへの委託があり、年間大体9,600万円くらいかかっている。委託費とセンター費用等諸々で。その中の運賃収入と国庫補助金等色んな補助金を入れると、約4,000万円

野藤委員長
道下委員

近くあり、大体 5,700、5,800 万円くらいで運営していると聞いた。僕は今なら 7,000 万円くらいかかると推測して大雑把に書いた。

それぞれ提案内容を報告させれたが、もしご意見があれば。

佐々木委員や沖田委員のドア to ドアだが、経費がかかるのでは。

野藤委員長

佐々木委員は民間タクシーのドア to ドアの方式による交通機関、このへんのことか。

佐々木委員

民間タクシーというかバス会社のことではないの。今度行こうとしている所はどうか分からないが、恐らく多くの所で、民間やタクシーを巻き込んで市がやっている。

野藤委員長

協議会みたいなものか。

佐々木委員

分からないけど。多分市でやっている所も結構多いと思うが、どこか予約センターとなる拠点を作って。自治会等は地域の人が運転手をお世話をするのは大変だから、拠点を作ってそこに任せて。運営費をどうしているかは行ってみないと分からないが、石見交通に 1 億 5,000 万円出している分を半分にすれば 7,500 万円になるし。それを減らすことによって石見交通の事業を縮小させるのではなく、新たな市の事業に参入してもらって運転手をしたりするので、石見交通自体の規模は少なくなるかもしれないが、事業としてはやれる。多分そういうイメージでやっていると思う。それが今は主流になっている。そうするとこの間の有償輸送のように、地域でやるのは負担だし運転手も大変だけど頑張っているから喜んでもらっているというのは、多分長続きしない。井野もそうだった。どこもやりたいのは同じだができないのはそこ。誰がどこに電話して誰が来るのか。「運転手はお宅の息子を呼んで来い」みたいな話し。だから実際に行ってみてどのような費用の変化になっているとか運営の難しさとかを聞いてみたい。

野藤委員長

行政の担当課に実情を聞かないといけないと思うのだが。

佐々木委員

担当課には聞いた。どこが先進市なのかと。そうしたら公共交通再編計画に小さい町が 4 つ載っていた。広島の新石高原町と、岡山と、広島の 4 つ。これは皆小さい所なので。

野藤委員長

小さい所がしやすいのかもしれない。

佐々木委員

そこの神石高原町だけは見に行っている。恐らく小さい町は皆その方式でやっていて、八女市は浜田と同じような人口規模で山間地もたくさんあって、面積はひと回り小さいけど状況は似ている。そこも一部でやっていたデマンドを全市に広げて、しかも事業者を巻き込んで8つの地区でやっているようなので。しかも登録制。その辺の人数である程度できる範囲になっているのかもしれない。視察がすごく多いみたいで。もとは安曇野市だったと思うが、九州でやっているのはほとんどこれが参考になっているようだ。多分そういうのが今は主流なのかと。費用はどうしても行ってみないと分からない。

あと思ったのが、補助制度はどこかやっているのか。

(「やっている所がある」という声あり)

佐々木委員

シニアカーへの補助金、あれも良いなと思って。レンタルなの。

道下委員

レンタルは浜田もやってるだろう。介護保険で。

野藤委員長

分からない。

佐々木委員

あれがあればバスに乗る人も確かに便利かもしれない。

野藤委員長

結局あれは、車いすではなく、長く歩けないから持っている人が多い。

佐々木委員

だから坂があったりするとどうにもならない。

野藤委員長

一応皆さんから提案いただき、ドア to ドアは皆の共通認識かなと思う。皆さんの思いを1つにまとめた提案の形にしていけないといけないのだが。

道下委員

佐々木委員の言っていた八女市のあたりが、今の私らの課題にぴったりだ。

野藤委員長

そうだ。ただ、実際に行って聞かないと分からない。提案をそれまでにしないといけないので、先進地事例も踏まえながら提案していくことになると思う。

道下委員

ネットで調べられるのかな。

佐々木委員

電話で聞けば大体のことは分かる。

野藤委員長

八女市に聞かれたのか。

佐々木委員

聞いた。八女市も聞いたし西海市にも聞いた。

野藤委員長

西海市に行かれたのか。

佐々木委員

行ってない。全部電話で聞いた。

小川委員	やはり住民の善意に頼るのは難しいし、運転手の高齢化で確保も難しくとなると、長続きするようなものにするには行政が中心になって、予約センターとか。事業者もどこまでされるのか。
佐々木委員	もうちょっと事業者に積極的に公共交通を考えてもらえば、まだまだ色んな知恵はある。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	西川委員さんご提案のハブバス停は面白い。無償だと公共路線が来ている先は行けないので、これは無償という考え方か。有償・無償は関係なく、ただハブバス停までであれば地域の中のことなので、という意味か。
西川委員	はい。
沖田委員	これが万能だという手はないのでは。浜田も広いので、弥栄の実情と市街地の実情は全然違うだろうし。それを言い始めたらきりが無いのだが。
小川委員	浜田市全域エリアで考えようと思ったら……安曇野市みたいな盆地だったら可能かもしれないが、浜田市は東京 23 区と同じ広さで全部をエリアとして考えるなら、相当なタクシーがいる。
沖田委員	タクシー会社でとなると、弥栄のように路線がない所になればなるほど、浜田市内から行ってまた浜田まで帰るコストが莫大かかる。
野藤委員長	考え方として、先ほどのハブバス停というか、ハブサロンというか、それはありかと思った。こことここを繋ぐ拠点がここで、ここからこう行くとか。自治会輸送があつて市内の幹線があつたりとか。毎年色々変わった時点で臨機応変に対応できる路線図ができれば非常に使いやすい。それでコストが安くて。
沖田委員	シルバー人材センターはタクシー部門等は駄目か。
佐々木委員	それも有りだと思う。運転手はそこで賄えるし運営もシルバーにやってもらって。
沖田委員	月金である程度の登録制にしておいて、それこそ先ほど西田委員が言われたとおり、各公民館がオペレーションセンターになれば、何となく仕組みができるかな。結構、暇を持て余して小遣いになるならやってみようかという。ある程度の費用が発生しないと無理かと思うが、運転手現職 1 人雇うのと、もうリタイアされ

	た方を1人雇うのでは全然、人件費コストが違う。変な話、即効性があるとすればそういう手法の方が即効性があるのかと。 それに、これは正直どこも手探りでやっていると思う。
野藤委員長	形はそれぞれの自治体によって違うと思う。良い所取りをするしかないのかなと思う。
佐々木委員	大まかな基本形はあって、そこを押さえて、あとは自分たちの地域に合わせて工夫するしかない。
西田委員	浜田市全部は統一しなくて良いと思う。
野藤委員長	地域によって条件が違うから。
西田委員	それを自由に地域ごとで考えてやってもらう。
沖田委員	逆に、地域によっては必要無い所もあると思う。ある程度平地で、公共交通が行き渡っていて。
野藤委員長	そういう人は敬老乗車券を使ってタクシーを利用しても良いのかなと。必ずどこも作りなさいというわけではないから。地域に合った形のものを何パターンか合わせていくのが良いかなと思う。
沖田委員	そうすると公民館単位の考え方が一番良いサイズなのかなという気がする。
西田委員	あとは利用するのに大概のイメージは、病院に行くか買い物に行くか、大体この2点が高齢者の利用理由というイメージだが、本当はもう1個、地域行事。公民館や地域行事に参加できない人が多い。これは一昨年くらいに弥栄の報告会で出た意見で、公民館が自由に使えるマイクロバスが1台あって、この日はどこの公民館が使う、この日はどの地域で使う、というシステムがあったら、高齢者の移動にはものすごく良いのだがと。
野藤委員長	大麻や羽原は、全住民のニーズ調査は当然やったのだろうね。
西田委員	それはされているだろう。
野藤委員長	ニーズ調査をして実際の状況はどうなのか把握しないと。
佐々木委員	アンケート調査をしているはず。
西田委員	アンケートだけでは一方的。積極的調査が一番優勢。今なら登録者が何人いるか、でも何年後には何人になるとか、地域によってすごく変わるのだから、整備したところで随時状況が変わる。
野藤委員長	発足時にはおられたが今はおられないとか。そういうのも常に

	チェックしないといけない。
西田委員	だから、ある程度先まできちんと調査しておかないと。
野藤委員長	その辺のことは直接担当課に行って疑問点を聞いた上で、現地を見に行きたいと思う。大麻や羽原の現地調査をしたいと思うが、よろしいか。
	(「はい」という声あり)
野藤委員長	日程調整はどうでしょうか。相手方があるのだが。
西田委員	どういう調査か。
野藤委員長	行って色んな話を聞かせていただくこと。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	一応、大体の日程というか。議会が始まるのでできればそれまでにとと思うのだが。これはやはり担当課が付いていくべきか。
篠原次長	特に、強制はしない方が良い。ただ、担当も一応一緒に行って聞きたいということはあると思うので、付いて来てもらうことは良いと思うが。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	議案質疑の午後からはどうか。
篠原次長	議案質疑の後に既に特別委員会が入っている。議会中となると、委員会も早く終わらないかもしれないので、本会議が始まる前でないといけないと思う。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	一応 6 月 17 日の午後ということでお願いしてみる。それまでに担当課で何か聞いておきたいことはないか。例えばデータ等は担当課にあるのか。利用者数等。
篠原次長	あると思う。
野藤委員長	何もしないで行くよりはデータを貰っていた方が。
佐々木委員	補助金申請の関係で必要だからデータは絶対あると思う。
野藤委員長	その辺の資料を紙ベースで。
西川委員	この間、中山間地特別委員会でヒアリングした時に、自治会輸送の実績ということでまちづくりからデータが回ってきた。大麻の実績とその事業計画というのが出ているので、また同じものを頼むより、これを共有できれば。
	(以下、自由討議)

野藤委員長	これだけ色々資料が載っていれば、17日に行って意見交換して、この資料の中でも気になった部分を質問したりとかできる。大体お願いしようと思っていた資料が皆ある。
沖田委員	大麻の例等でも、予約は運転手に直接電話する。直接電話したら各々の都合が勝手に来るから、受ける側はたまったものではない。それで無報酬なら誰もやらない。
野藤委員長	ガソリン代程度は出るだろうが。
沖田委員	使命感だけでは続かないだろうな。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	17日午後ということで決定したので、相手方と相談して時間を決めたいと思う。幹事会へ提案書を提出する締め切りはないの。
篠原次長	ないが、前からお知らせしているように、昨年12月の議運で予定サイクル図を出した。それでいくと7月末が幹事会予定だが、もう少し前倒しした方が良いのではというお話もあるので、6月中くらいが良いと思うのだが。他委員会も結構進んでいるし。提案書は今日の資料の中に書式を入れているが、レジュメにもあるとおり、政策討論会の議題を書いていただくのと提案理由を書いていただく。あとはそれに見合った資料を揃えることだが、それでプレゼンをするわけではないので。プレゼンはもっと先になるし、もっと詳しくやらないといけない。とりあえずは関門として討論会幹事会へ委員会としてのテーマを提出してもらう。
佐々木委員	幹事会に提出する3項目は。
篠原次長	3項目とは。
野藤委員長	政策討論会の議題と提案理由と資料。
佐々木委員	3項目というのはどこのことか。
篠原次長	政策討論会規定第4条。例規集の。基本条例を受けた規程の中に書式がある。
野藤委員長	たたき台を書いて皆さんに見せようと思う。17日を経た後でも良いし、その前後くらいに出さないといけないと思っている。視察した後。
	(以下、自由討議)
佐々木委員	視察の話にいくのか。
野藤委員長	視察もやっておかないと、日にちだけは決めたけど。

篠原次長	(3)の資料等と書いているが、どんな資料を揃えるかもできれば協議していただきたいのだが。どんな資料をつけて提案するか。全く資料なしではまずいかなと。
野藤委員長	17 日の視察や八女市等先進市にお事例などを資料とすればいいのではないか。一応佐々木委員に幹事をやってもらいたいと先日言ったので。
西田委員	何かあれば言ってもらえれば。
佐々木委員	八女市だとか、それがだめなら西海市などがいいと思う
西田委員	公共交通の関係
佐々木委員	それから豊後高田市が学びの 21 世紀塾をやっている。U I ターンも成果を上げているようだし、幼児教育の無償化も前から取り組んでいる。
野藤委員長	一応佐々木委員に幹事をやってもらいたいと先日言ったので。
佐々木委員	他にあれば言ってもらえれば。
西田委員	春日市、日南市
佐々木委員	古賀市
野藤委員長	九州北部の辺りで。
	(以下、自由討議)
野藤委員長	ではそういう予定としてご案内したいと思う。

2 その他

野藤委員長	他に何かあるか。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	事務局からは。
篠原次長	いえ。
野藤委員長	それでは 17 日ということと、視察の件をお話させていただいたが、皆さんご協力をお願いします。以上で総務文教委員会を終了する。

(閉 議 14 時 48 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 野藤 薫 ㊞